

授業概要

児童生徒の読書活動は、重要な文教政策課題の一つになっている。読書活動の意義や目的について考えながら、人格の形成に大きな影響を与える読書行為そのものを考え、味わうようにしたい。楽しむ読書や学ぶ読書、生き方に関わる読書を通して、発達段階に応じた読書活動を追究していく。

人間性を豊かにするために、読書の果たす役割は大きい。様々な読書体験の活動を行い、交流していく中で、豊かさを実感していくことが重要である。その営みを支える『読書』の魅力を追及し、自己の学びの成長に資するようにする。そのための読書活動の多様性に触れることを講義する。

授業計画

第 1 回	読書活動の意義と目的
第 2 回	楽しむ読書の活動(1) 絵本に親しむ
第 3 回	楽しむ読書の活動(2) ファンタジー作品で広げる想像性
第 4 回	楽しむ読書の活動(3) 図鑑で知的好奇心を広げる
第 5 回	学ぶ読書の活動(1) ストーリーを考える
第 6 回	学ぶ読書の活動(2) 描写の効果をとらえる
第 7 回	学ぶ読書の活動(3) 論理的思考を巡らせて
第 8 回	生き方に関わる読書(1) 家族の問題を見つめて
第 9 回	生き方に関わる読書(2) 平和と人権の問題を受け止める
第 10 回	生き方に関わる読書(3) 命の尊さを求めて
第 11 回	同一作家を読む
第 12 回	一連の主張を読む
第 13 回	異質体験を試みて
第 14 回	読書体験の交流
第 15 回	読書感想文の指導と意義
第 16 回	レポート提出 まとめ

到達目標

様々な読書活動を自ら体験し、自己の読書生活をよりよくしていこうとすることができる。

豊かな人間性に資する読書活動の可能性を追いかけ、読書の領域を拡大し、質を高める努力をすることの大切さを実感することができる。

履修上の注意

教員をめざす者として遅刻をしないようにする。自分なりの感じ方や見方を出し合いながら、様々な考えを幅広く受け止め、自分の感性をさらに豊かにしていく姿勢で臨むこと。

予習・復習

授業で扱った読書作品に関連・発展する作品等、調べて次時につなげる取り組みを行う。それが復習となり、予習につながる。

評価方法

各回における授業中の話し合い活動への参加状況(30%) 授業中の振り返りおよび提出物(40%) 最終レポートの提出と内容(30%)

テキスト

必要に応じて資料を配付する。なお、テキスト、参考文献等については、授業内で指示する他、適宜推奨図書を紹介したり、必要な資料を配布したりする。